

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース 1月号 (No.230)

2023年1月27日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

経営懇役員リレーエッセイ

経営懇会員のみなさん、新年もどうぞよろしくお願いいたします

会長 石川幸枝（広島・(福)愛児福祉会常務理事）

1月23日通常国会が始まりました。首相は、施政方針演説の中で、歴史の転換点と位置づけると発言、本気で「戦争のできる国づくり」から「戦争する国づくり」に進めようとしていることに空恐ろしさを感じました。

ウクライナの戦争や中国・北朝鮮を口実にしながら、敵基地攻撃能力（反撃能力）をもつ、そのために防衛費を4年間で43兆円にまで膨らませることを明言。『新しい戦前』などと明言した有名人もいます。それほど身近に戦争を感じる人たちが大勢います。有名人ではないけれど、私もその一人。

私たちはいつも「子どもたちの今がかがやく保育・福祉を目指して」、子どもたちが安心してのびのびあそび食べて眠る保育の中で、子どもの権利条約を活かし保育の土台に据えた保育運営を目指しています。子どもたちの人権「生きる権利・育つ権利・意見表明権を保障する」、その基盤は「戦争のない平和な世界」ではないでしょうか。

昨年2月に勃発した戦争（ロシアのウクライナ侵攻）が今も続いています。「どうしたら戦争が止められるのか」と多くの方々が胸を痛めておられると思います。戦争孤児・戦争未亡人が増え続けています。

戦争をしないと世界に宣言した憲法をもつ日本、原爆をはじめて体験した被爆国日本が、戦争を止めるためにこそ外交力を発揮しなければならないのに、その日本政府が防衛費を2倍にも引き上げ軍事大国になろうとしています。核廃絶を唱える首相ですが矛盾しています。核兵器禁止条

約の批准はおろか、締約国会議へのオブザーバー参加もしなかった日本のリーダーです。発する言葉と実際の行動には開きがありすぎます。

岸田首相は、「次元の異なる」少子化対策をするとして、子育て予算をこれまでにないものにするといい、その内容は、6月の骨太方針で示していますが、こども家庭庁の財源を言っているのだと思います。財源について国民全体で支える仕組みとはどういうことでしょうか。

子どもを理由にして消費税アップを実施してきましたが、消費税アップのダシに子どもを使わないで！！と言いたい。

人々が疲弊してしまう方策では、ますます少子化は進んでしまうでしょう。

1990年の「合計特殊出生率1.57ショック」（1989年の出生率が1.57と戦後最低を記録したことが翌1990年に発表された）以来33年。本気で英知を集めて対策を取るべきでした。しかし逆にその間、国全体で非正規化が進みました。これでは子どもを産み育てる余裕はありません。

異次元の対策というなら最後のチャンスです。総合的に考えて抜本的な対策を打ち出してほしい。防衛費の増額をしているわけではありません。43兆円は少子化対策費にすべきです。

今年は「戦争か平和か」が問われる年となりそうですが、子どもたちのために保育制度の改善と子どもたちへの平和を希求しながら、全国のみなさんとともに、元氣のでる1年にしていきたいと思います。

経営研究セミナー

神戸にて1泊2日で開催 参加者数 505 名！

1月9～10日に、第42回民間保育園経営研究セミナーを神戸にて開催しました。コロナ禍で集まることが困難な中でも、昨年度からセミナーを復活させ、今回も会場とZoomのハイブリッド方式で開催することができました。



会場には、約150名が集まり、Zoom参加者とあわせると505名の参加となりました。過去最高の参加者数です。Zoomで職場から参加すると内容に集中しにくい場合もあり、従来のセミナーと同じとは言えませんが、遠方でも参加できる条件が広がりました。オンライン視聴でも、地域で集まって一緒に視聴し、学びつつ交流した地域もありました。

1日目全体会パネルディスカッション

1日目の全体会では、『すべての子どもが大切にされる保育を～「架け橋プログラム」をのり



こえる職員集団づくり～』をテーマに、パネルディスカッションを行いました。保育をめぐる様々な動きを現場の職員とともに学び、一緒に運動を広げていくためにはどうしたらいいのか。一人ひとりが考えるために、パネルディスカッションを企画しました。

パネリストとして、大宮勇雄さん、中西新太郎さん、平松知子さんにお話しいただき、現場の実態や園長の思いなどフロア発言をまじえ進行了しました。

現場からは、若い職員と一緒に保育をつくる難しさや運動への理解や参加が厳しい実態が語られ、現役園長として率直な悩みも出されました。アンケートには、共感の声が多く寄せられています。課題は根が深く、すぐに答えが出るものではありませんが、園長の自己責任ではなく、職員集団で共有したり、援助しあえる地域のつながりが重要になっています。

大宮さんが報告された中で、「保育の質と価値」という提起については、まだまだ整理されていない点もあり、今後、あらためて整理・議論が必要です。



コロナ禍以前から大人同士の関係づくりが課題になっていましたが、コロナ禍により集まらない・話す場がないといった状態が恒常化し、より深刻な状況になっている現場も多いのではないのでしょうか。そうした状況をどう打開し、保育と運動を前進させていくのかという大きな課題をあらためて確認する全体会となりました。

夕食懇親会も開催

1日目夜には、夕食懇親会を開催しました。会場参加者のうち、約100名が参加しました。乾杯の音頭は、前会長の井関政勝さん（96）。戦時中に青年時代を送ったことにふれて、「二度と戦争を起こしてはいけない、戦争する国づくりに反対の声をあげよう！」と決意を込めて話していただきました。



懇親会としての企画は用意していませんでしたが、参加者のみなさんに発言いただき、久しぶりに全国各地の仲間がどんな思いで活動しているのか、聞きあう機会になりました。話すこと・聞いてもらうことで、元気になることを実感する懇親会となりました。

2日目は講座・分科会(午前)

2日目午前は、会計講座と5つの分科会に分けられました。今回は、講座・分科会とも、全て会場からZoom配信しました。ホストは各地の会員園に協力を呼びかけパソコンの手配・当日の操作も担っていただきました。分科会の運営は役員が担当し、グループ討議は参加者のみなさんにも協力いただき、分担しました。参加者みなさんの力も得て、会場とオンラインで講座・分科会を行うことができました。

内容は次号であらためてお伝えしますが、「もっと話したいのに時間が足りない！」という感想が多く寄せられました。ゆっくり話す場、安心して話せる場が求められています。

2日目全体会は記念講演・活動交流



午後の全体会は記念講演から始まりました。「一人ひとりの言葉で平和を語ること―世界情勢のなかの私たちと日本国憲法」をテーマに、小森陽一さん（東京大学名誉教授・9条の会事務局長）にお話しいただきました。

小森さんご自身の子ども時代の体験もふまえながら、現在の世界情勢を理解するうえで、第2次世界大戦やそこに至る流れなども見ていく必要があると強調されました。現在の政権が、戦争できる国づくりを着々と進めようとしている中で、それが一人ひとりの暮らしと関わる大きな問題であることを、それぞれの周りに伝えていくこと、今後国会で論議される「安保3文書」についても学んで、わかりやすく話して話題にしていくことが大事、と話されました。

活動交流では、「配置基準アンケート調査について」（調査研究部・中岡さん）、「京都市の動きと対策」（京保連法人部会・北田さん）、「新園建設のとりくみ」（広島・（福）愛児福祉会・石口さん）、「尼崎の保育実態調査」（兵庫・（福）あゆみ福祉会・田近さん）の報告がありました。

緊急声明「保育施設における虐待・権利侵害の防止に関する声明」を発表

1月9日に、上記の緊急声明を発表しました。声明文は別紙同封します。

保育をめぐる情勢

●2023 年度政府予算案

政府は、2023（令和5）年度当初予算案を12月23日に閣議決定しました。

4月から発足するこども家庭庁に関わる予算としては、4兆8104億円が計上されました。前年度は各省庁に分かれていた移管予定の施策の予算額の合計は、4兆6871億円です。前年と比べると、1233億円増で、伸び率は、約2.6%にとどまりました。

一方、防衛関係予算の伸び率は約26.3%と、こども家庭庁予算の伸び率と比べ約10倍と突出しています。

このように、子ども関連予算や保育関係予算については、改善点の少ない予算案であるといえます。

チーム保育推進加算を一部拡充

今回の予算案で、一部拡充する案が盛り込まれたのが「チーム保育推進加算」です。政府予算案の資料によると、現行では、後述の要件を満たせば保育所の規模にかかわらず保育士1人を加配できる仕組みを、利用定員121人以上の施設に限り「25：1の配置が実現可能となるよう、2人までの加配を可能とする拡充」を行うとされています。

今回加配の対象となる121人以上の保育所は、全保育所の18%程度にすぎません。しかも、この加算を受けるための要件「職員の保育施設での平均経験年数12年以上」は、維持されるということです。そうすると、121人以上の保育所でも加算を受けられるとは限らず、実際に2名の加配が可能となる保育所はごく一部と予想されます。すべての施設を対象に、30：1の基準を25：1に改善するのならば保育条件の底上げになりますが、今回の措置で

は、対象が限定されるチーム保育士推進加算の一部「改善」でしかありません。

今回の措置で満足することなく、現場の職員増員や配置基準の抜本的改善を求める声を、さらに大きくする必要があります。通常国会での審議を注視していきましょう。

●少子化対策の動き

岸田首相が打ち出した「異次元の少子化対策」。あたかも抜本的な対策を打ち出すかのようにみせかける言葉ですが、その内容は今後検討となっています。

検討のための関係府省会議が1月19日に初会合を開きましたが、予算「倍増」とはいうものの、具体的な内容や財源も不透明といった報道がされています。

少子化対策の柱は、児童手当の拡充、保育「サービス」の充実、育児休業の強化や働き方改革の3つ、と示されていますが、新聞報道等によれば、政府としては児童手当を中心に進めて、内閣支持率の低迷を打開したい思惑もあるとのことです。政府が拡充するという、児童手当の所得制限撤廃や支給対象年齢の拡大等には年間で約2.5兆円の財源が必要となり、今のところその見通しは示されていません。

一方で防衛費（軍事費）の増額は着々と進められようとしており、本気で少子化を解決しようとするつもりがあるのでしょうか。こども家庭庁創設直前の今こそ、子どものために予算を！の声を、あげていく必要があります。新聞への投書やSNSでの発信、園の職員や保護者への発信など、自分のできることから声をあげましょう。

各地の活動

●法人として声明発表

東京・(福)武蔵野緑会

子どもの願い・希望・未来を壊さないで！ 「戦争する国づくり」に反対する声明

◆子どもの声が聴こえていますか？

・子どもたちは保育園の日々の生活の中で、どの子ども自分らしく・人間らしく生きていこうと真剣に考え、学んでいます。

・散歩の帰り道、一緒に手をつなぎたかった友だちはすでに別の友だちと。自分の要求が通らなくて大きな声で泣いて訴えるほど強い思いがあるとき、相手に向かって4歳児の男の子が絞り出した言葉は「はなしあって！」でした。結果は自分の思いを受け入れてくれるものではなかったけれど、泣きながら先生と手をつないで散歩から帰ったあの時間がなんと大切な自分づくりのときだったことか。

・保育園からお母さんとの帰り道、夕暮れのせまる空には飛行機が。「あれはロシアの飛行機だ！」と叫んだ5歳児の女の子。「どうして？」とお母さんが訊ねると、「黒い色だから！」と。「戦争は絶対にダメ、私がロシアの大統領とかけっこで勝負する！」の叫びが響き渡る家路までのかけがえのない時間。

・こんな子どもたちの声が首相や政府の人たちにはどのように聴こえているのでしょうか。

◆こんな大変なことをみんなで話し合いもせず、勝手に決めないでください——「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保持！

・2022年12月13日、岸田政権は「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」という三文書を、国会で審議することなく閣議決定しました。これは、相手国領内への「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保有を盛り込むなど、「戦後の防衛政策の大きな転換点」となるものです。

・2015年に強行成立された安保法制。政府は集団的自衛権の行使が可能となる道を踏み出しました。これは、米国が始めた戦争で、日本は武力攻撃を受けていないのに、自衛隊が米軍を支援するため相手国領内に敵基地攻撃をすることができるようになることを意味します。今回の安保三文書の閣議決定は、このことを実践的に可能とするものです。こんな大

変なことを閣議で決めてしまうことはとても恐怖です。

◆国民生活の実態が見えないのですか？——こんな軍事費はいらない！

・三文書はさらに、このような「戦争をする国づくり」を進めるために、2027年度に軍事費を国内総生産比（GDP）2%、43兆円と決めました。アメリカ、中国に次ぐ世界3番目の軍事大国化になります。そのための財源は、所得税や消費税などの増税、社会保障費削減と抑制、借金（国債）などによる以外にありません。すべて私たちの税金からです。国民負担率は危険水域の50%をはるかに超え、私たちの生活はますます苦しくなるでしょう。

・岸田首相は「子ども予算2倍化」とか「異次元の子育て支援政策」を口にしていますが、その財源は示していません。無謀で愚かな軍事費に膨大な税金を回そうとするからです。こんな国民生活を犠牲にした軍事費は絶対にいりません。

◆子どもの願い・希望・未来を壊さないで！

・日本国憲法は「平和のうちに生存する権利」という恒久平和主義の理念を掲げています。私たちは、子どもたち一人ひとりが尊重され、人間らしく幸せに生きる権利、育つ権利、自分らしく意見を表明し参加する権利などを保育のなかで大切にしています。そのためにも「平和な社会」は不可欠な前提なのです。

・子どもたちが答えを探し求めて見つけたように、人が人を殺すこと、戦争はどんな理由があろうとも絶対にダメです。意見や価値観の違いなどで相手を排除するのではなく、お互いに包摂し合い、ねばり強い対話と協調こそが求められているのです。

・「戦争をする国づくり」はこのような私たちの保育の理念を真っ向から踏みにじるものです。政府は子どもの願いにまっすぐ向き合ってください。子どもの希望や未来を奪わないでください。そのためにも軍事費ではなく、子どもと大人の権利保障、保育者の処遇改善と配置基準改善をセットでただちに進めてください。

・私たちは「敵基地攻撃能力（反撃能力）」を盛り込んだ安保三文書に反対し、撤回を求めるものです。

2023年1月6日
社会福祉法人武蔵野緑会理事会

全国各地の会員園から その10本 保育制度改善求め 保護者と共に 運動を広げよう

埼玉・くるみ保育園・第2くるみ保育園
〇久しぶりに日比谷集会へ

今年度は3年ぶりに11・3日比谷の集会が全国から800人もの皆さんが集まって行われました。私たちも職員7名保護者2名で3年ぶりに参加することができて、熱気を肌で感じることができました。こんなにもたくさんの仲間がいる！！思っていることではありましたが、少し距離を感じてしまっていたようで、改めて切実に心から、たくさんの仲間との同じ思いに胸熱くなりました。参加した保護者の方からは、「保育問題についてまだまだ知らないことがたくさんあると実感した。とても良い経験ができた」との声がありました。

参加者の感想（保育問題委員会ニュースより）

- ・保育問題についてまだまだ知らないことがたくさんあると実感した。とてもよい経験ができた。
- ・全国に仲間がいることがわかり元気をもらえた。集まって関わることは大事だと改めて感じた。
- ・遠足のように楽しく参加できた。歌など子どもも楽しめそうだから、来年は子どもと一緒に参加したい。
- ・愛知県の「子ども達にもう一人保育士を」の運動が全国に広がるように、私たちも広めていきたい。



11.3 集会参加の後、参加した保護者さんが中心となって逆井先生の講演会が行われました。保護者の皆さんからのアンケートに答えるような形でのお話で、保育園や保育制度の成り立ちのお話から、子どもの権利について、今までの保育情勢の歴史などを丁寧に細やかにお話してくださいました。参加した0才児のお母さんからは、「保育園に預けていて保育園の成り立ちを聞くことは必要な事で当然のことだと実感した」との感想が寄せられました。

〇地元議員との懇談で



さて、北埼玉保問研政策部会は、署名の取り組みや地域の現状や動き（市長懇談や対市懇談の内容や様子）園での様々な対応や対処などを交流したり討議したりする部会です。昨年は11・3の集会がオンラインとなり議員要請も各地域で行うこととなったことがきっかけとなり、今年は2度目の地元での懇談です。政策部会では地元の園が中心となりコンタクトを取り自民党衆議院議員と立憲民主党衆議院議員との懇談の機会を得ました。

今回は、保護者も赤ちゃんを抱っこしながら参加し、兄弟で同じ園に入園できない状況について、切実な思いを訴えていただきました。議員は、「その現状はすぐに市に問い合わせるみる」との回答がありました。子育て中の保育士は、給与の実態を給与明細を提示しながら訴えました。一年目の職員からは、同じ養成学校の仲間は仕事の大変さや処遇の低さから、もう離職する仲間がいて、自分も未来が不安になる。との思いを率直に訴えました。参加者からの要望は、だからこそ、配置基準の改善が必要なのということにつなげ、愛知の「もう一人保育士を」の声も紹介しました。十分な時間をとって聞いてくださり紹介議員にもなって頂きました。



議員のお一人は、最後に「党では現在話し合い検討し議論していることがある」と切り出し、次のような話をされました。

「保育士不足を解消するために0・1・2才児が保育園に集中しないように、児童手当を充実させ家庭で保護者が見られるような体制づくりを考えている。育休制度がもっと取得しやすく、延長することもでき、保育園に集中しないような対策がいいのではないかと考えている。保育士、保育士というが誰でもいいわけではない、保育士の質も問われているのだから。必要な時に一時保育や子育て支援などを受けられるよう、保育サービスを充実させていく。だが、そのためには財源を確保しなければならない。パート職員の扶養範囲額を下げ、税を払っていたく方の幅を広げる、社会保険料などを上げること

も考えていかなければならない。このような議論を行っている」と。

かなりコンパクトに整理しましたが、このような話が議員から飛び出してきました。

勿論、私たち参加者からは、「そうではない、子育てを孤独にしない。仲間の中での育ち合いが大切。こんな今だからこそ、関わり合い触れあい、会える保育が大切」と、憤り震えるような声で訴えました。ここ最近の保育園での保育士による児童虐待についての報道の在り方が少し今までとは違うと感じていましたが、この話に繋がったような気がしました。

そして2023年新年の岸田総理の年頭記者会見では、この議員懇談の折の議員のお話と近い話が随所に出ていました。

「異次元の少子化対策」とネーミングは期待させるような表し方をしていますが、この春に発足する「こども家庭庁」がこの提案のような内容で突き進んでいくのではないかと、とても心配になり、今以上に子どもたちの成長・育ちを中心に置くことに声をあげなければならないと痛感しました。

子育ては家庭だけで行うように孤立させてはならないと思います。子どもたちを取り巻く、子育てに関わる人たちが手を携え輪を作り、保育子育ての環境を充実させることが大切なのだと思うのです。首相のいう「保育サービスの拡充」ということがどういうものになっていくのか。どういうものにさせていくのか。しっかりと見ていかなければ「こども家庭庁」の発足に向けて、色々な思惑が絡まっているように思えてなりません。

引き続き声をあげて行く事の必要を強く感じているところです。

文責：第2くすみ保育園 佐藤滋子

*** 議員懇談の資料として作成したしおり「保育士の生の現場の声」を別紙資料として同封します。**

お知らせ

●リモート学習会「幼保小の架け橋プログラムの問題点と私たちの保育」

2023年2月15日13:30～15:30で、架け橋プログラムのリモート学習会を行います。講師は長崎大学の脇信明さんです。

案内チラシを同封します。参加費は無料です。お気軽にご参加ください。

※当日のレジュメ・資料は、経営懇ホームページのこの学習会の紹介ページに掲載しました。

●0・1歳児の定員割れ調査

今年度も0・1歳児の定員割れアンケート調査を実施致しますのでご協力下さい。前回アンケートを含め、3年間の推移を調査する事を目的とし、その内容を今後の内閣府等との懇談資料としても活用致します。

12月31日末を締切としていましたが、回答施設が少ないため、締切を延長しました。

ご協力の程どうぞよろしくお願い致します。

【アンケート対象】施設ごと（1施設1回答）

【締切】1/31（火）※締切を延長しました。

下記QRコードをスマホで読み取るか、URLを入力し回答してください（半角英数字で入力）。

<https://bit.ly/3HccZJG>



【経営懇・活動日誌】1月

○1月4～6日セミナー最終準備。当日の資料、機材等を発送。

○1月8日（日）セミナー前日。会場の設営、配信機材を設営し、会場の音声等と接続。音と映像の確認等を行う。

○1月9～10日（月～火）第42回民間保育園経営研究セミナー開催。会場は、兵庫県神戸市の「神戸バイシェラトンホテル&タワーズ」。会場約150名、Zoomで約350名が参加

○1月23日（月）三役会。セミナー総括や今後の課題整理。

○1月28日（土）全保連常任幹事会。

○1月末締切で、アンケート調査。

同封資料

①緊急声明

「保育施設における虐待・権利侵害の防止に関する声明」

②配置基準アンケートのお願い

締切を2月15日に延期しました。ご協力ください。

③議員懇談資料

北埼玉保問研政策部会のみなさんが作成した議員懇談用のしおりです。

④リモート学習会等ご案内

2月に開催されるリモート学習会のご案内です。録画配信もあり。

セミナーアンケートで聞きました

コロナ禍3年…ひそかな楽しみ♡

栽培・・・園庭で種をまき花を育てる事。

子どもと一緒にしてくれて小さな芽を見つけて喜んでいる姿を見るのがなによりも嬉しいです。自分で種をまかないとこの感動はないですね。何でも主体者になる事が大事ですね。